

緊急通報システムについて

Q ひとり暮らしの高齢者を見守る民生委員さん1人当たり、最大と最少で何人程度対応しているのか。

A 保健福祉部長 最大で67名に、最少は6名に対応しています。

Q いすみ市は、プロポータル方式で考え、自宅に設置された非常ボタンを押すことで自動体外式除細動器（AED）を登載した車両が駆けつける警備会社に委託している。

A また、センサーで留守かどうかなど安否確認ができ、孤独死の予防も考え、24時間以内に警備員が出向く体制である。利用者は協力員の義務づけもなく、悪質な訪問・振り込み詐欺対策にも駆けつけるがどうか。

A 市長 実情を把握し、費用対効果の確保ができるものを選んで、市

民に安心・安全を与えていきたいと思っています。

A 保健福祉部長 使いやすく、有効で機能的なシステムに変更を図っていきたいと思っています。

関連質問



川原 春夫 議員

防災対策について

Q 河川氾濫の状況をリアルタイムでモニター画面でキャッチできるように取り組みはどうか。

A 総務部長 状況を的確に把握することの重要性から費用等を勘案して検討する必要があります。また、県への働きかけも行いたいと思います。

地域経済イノベーションと地域経済循環創造事業交付金について

Q 市としてこの交付金を利用できる事業、

A 取り組みはあるか。経済環境部長 「木の駅プロジェクト」を支える意味からも、木材の活用について、例えば「さんぶの森元気館」のボイラーに活用できないか等、率先して市も一緒にやっていきたいと考えています。



日向の森の様子

Q 日向の森の活用についてはどうか。

A 市長 日向の森対策のオプションを日頃から検討して行きたいと思っています。

土曜授業の実施に係る学校教育法の一部改正について

Q 段階的にどうやってこの問題について

取り組んで行くのか。

A 教育長 教職員組合、校長会、保護者、PTA等にも問題を提起して、議論を深めてまいりたいと思います。厳しいこの少子化を考えれば、子供たちは大切な地域、国の宝ですので、教育は学校だけではなく、地域みんなで、住民みんなで支える必要があるかと思っています。そうした意識を共有することが必要だと思えます。そうした観点からすれば、コミュニティスクールが、既に

われている評議委員制度だとか、学校支援本部等の施策を超えた、より効果的な学校支援策であり、教育を、学校、地域みんなで考える、支える制度であるならば、試験的に1校でも、そうした取り組みの学校があってもいいのかなと個人的には思っております。また、一貫校との組み合わせがあってもしかるべきだと思っております。

